

扇ノ山のマーキングポイント紹介

2010.02.27 アサギマダラを調べる会・まとめ会資料

扇ノ山付近

2009 年は 3 回この地を訪れている。私が標識した 454 頭の中の 12 頭が再捕獲されており、再捕獲率 2.6% と非常に高い。琵琶湖以西の移動を調べるには格好のマーキングポイントであり、多くの人のマーキング参加を期待している。

京都からは国道 9 号線で約 180km と遠隔の地である。山頂は氷ノ山の北西約 12km、山頂(1309.9m)を挟んで鳥取県と兵庫県に跨がる広大な高原で、兵庫県側には畑ヶ平高原農場と上山高原牧場があり、鳥取県側には河合谷高原牧場および農場がある。県境の蒲生トンネルを挟んで兵庫側は新温泉町千谷(おもしろ昆虫化石館がある)から左折して(県道 262 号)から海上林道に入る。鳥取県側はトンネルを出てすぐの信号(塩谷)を左折する。

初めて入る人は、国道 9 号線(新温泉町千谷)から 3.5km の位置にある上山高原エコミュージアム(上山高原ふるさと館内)を訊ねて、上山高原 ECO-MUSEUM GUIDE MAP を入手し、様子を聞くのが良い。アサギマダラの情報も聞けるだろう。そのマップ(200 円)には林道が詳しく書かれており、頼りになる。

* NPO 法人 上山高原エコミュージアム(上山高原ふるさと館内) 電話 0796-99-4600
FAX0796-99-4601

所在地：〒669-6953 兵庫県美方郡新温泉町石橋 757-1

河合谷高原牧場および農場

牧場には良いポイントは見つからないが、林道沿いと耕作が放棄されて 3 年になる農場が好ポイントになっている。農場はこのまま放置されれば数年で森に還り、ヨツバヒヨドリは消滅してアサギマダラを大量に観察することは出来なくなるだろう。理由は分からないが、氷ノ山と違って今のところ鹿による食害は多くはないようである。

兵庫県側から県境を越えると「水とのふれあい広場」があり、冷たい湧き水があふれるほど流れている。左折して 500m も進むと農場への入り口となり、車を置いて徒歩で入る。更に林道を 300m 進むと作業小屋があり、そこからも農場に入れる。農場に入らずにそのまま林道を進めば路傍のヨツバヒヨドリにアサギマダラが群がるポイントが 3~4km ほど続くが、夏の間は標高が下がるにつれ数は少なくなる。農場は段差のある畑がブナの森に囲まれる状態で広がり、その林縁部及び段差の法面のブッシュの蔭などに咲くヨツバヒヨドリがポイントであるが、農道は複雑で迷いやすい。来た道を確実に覚えておいて戻るようにしたほうが良いだろう。農場の標高は 1000m ~ 1100m で、7 月下旬から 8 月いっぱいシーズンと思われる。

上山高原牧場

畑ヶ平高原農場およびその林道は、あまりにも頻繁に草刈がなされているようで、ヨツバヒヨドリの群落は見られなかった。

上山高原牧場は、かつては広大な高原牧場だったところで、長期間放置されて森に還っていた山域を「ふるさと再生事業」として地元が精力的に取り組み、かつての景観であった一面のススキの原の再現に挑戦している草原である。牛も数頭飼っているが放牧が目的ではなく、観光を意識したものかと思っている。草刈や火入れは春から夏、秋にかけて地元の人々によって行われ、そのうち6月頃までに手入れされた草原にはヨツバヒヨドリが遅れて咲く。2009年は9月8日(9時から13時20分)に一人で200頭標識した。そう広くない範囲であったが、そのような谷間の草原は他にもあちこちに見られた。

こちらの標高は900m前後で、河合農場よりは低く、草刈による花期の遅れから、9月に入ってからの温暖な日が良いように思う。また、遠隔の地なので泊りがけで出かけたところであるが、秋の日本海側の天気は予測が難しい。牧場上部にしゃれた避難小屋があり、無料、無許可で使用しても良いと聞いているが先着順で、寝ることは出来ても炊事できる場所はない。小屋のすぐ近くに熊が出てきたこともあり「うちの熊は悪いことはせん」とは聞いているが、野外でのキャンプ等は気味が悪い。